

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

A 94 ページ

組

読み
くむ
くみ
三人で組みになり、話すれんしゅうをする。

く
糸
糾
組

A 94 ページ

組

文① 考えるとき、うでを組むくせがある。
② カードを組みあわせて、一つの絵にした。
③ 二年二組になった。
④ 白組がゆうしようした。

く
組みあわせる
にくみ しろうぐみ
二組・白組

A 94 ページ

場

読み
じょう
ば
いみ
ばしょ
ところ

坦
埌
場
場
場
場

A 94 ページ

場

文① うんどう場で、おにごっこをする。
② えい画かんの入場けんをもらった。
③ すな場であそんだ。
④ ひろ場で、べんとうをたべる。

入
場
けん
にゅうじょう
すな場・広場
ば ひろば

A 95 ページ

楽

読み
がく・らく
たのしい
たのしい
いみ
(1)おんがく
(2)たのしい
(3)やすまる

𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔

A 95 ページ

楽

文① 楽しいゲームをおそわった。
② 音楽にあわせてからだをうごかした。
③ ピアノもたいこも楽きです。
④ 楽なしせいにしてください。

おんがく がっ
音楽・楽き
らく
楽なしせい

A 96 ページ

牛

読み
ぎゅう
うし
いみ
ウシ
子牛
子どもの牛

ノ
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔

A 96 ページ

牛

文① 牛が、のんびり草をたべている。
② 牛のちちしぼりをした。
③ つめたい牛にゆうをのむ。
④ ぼくは、牛にくがすきだ。

ぎゅう
牛にゆう
ぎゅうにく
牛肉

21

二つの漢字でできている言葉

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

鳥

読み 親鳥
ちよう とり
いみ とり

鳥 鳥 鳥

文① ワシは鳥の王さまだ。

② 小鳥のさえずりが聞こえる。

③ まい朝、鳥かごをそうじします。

④ 白鳥が、いけをおよいでいる。

ことり とり
小鳥・鳥かご
はくちよう いけ
白鳥・池

市

読み 朝市
いち
いみ (1)まち、し
(2)もののうりかいを
するところ

市 市 市

文① 市やくしよを見学する。

② わたしは青森市にすんでいます。

③ うお市場は、朝が早い。

④ 朝市で、やさいをかった。

し
市やくしよ
うおいちば あざいち
魚市場・朝市

弓

読み 弓矢
ゆみ
いみ (1)ゆみ
(2)ゆみのように
まがったもの

弓 弓 弓

文① おじいさんは、弓の名人だ。

② 弓をひいて、けものをねらう。

③ バイオリンの弓を手にとってみた。

④ からだが弓なりにそる。

ゆみ めいじん
弓の名人

毛

読み 毛糸
もう
いみ (1)け、かみのけ
(2)けのように
ほそいもの

毛 毛 毛

文① 毛糸のマフラーを、くびにまいた。

② セーターの毛玉をとる。

③ タンポポのわた毛がとんでいく。

④ さむいので毛ふをかけてねた。

けいと けだま
毛糸・毛玉
わた毛げ もう
毛ふ

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

B 97 ページ

矢

弓矢

読み
や

いみ
や

文① リンゴのまん中に矢が当たる。

文② 弓と矢のセットで弓矢という。

文③ 矢じるしを書く。

文④ 矢じるしにそって、あるいた。

ノ
匕
矢

ゆみ
弓
矢

や
矢じるし

A 97 ページ

同

同じ点数 ← 同点

読み
どう
おなじ

いみ
おなじ

文① ぼくも同じ考えだ。

文② 弟とわたしは、たん生日が同じだ。

文③ サッカーのしあいは、同てんだった。

文④ 学校へつくと同時にチャイムがなった。

冂
冂
同

おな
同じ

どう
てん
どう
同点・同時

A 97 ページ

古

古い本

読み
こ
ふる
ふるす

いみ
ふるい

文① 図書館には、古い本もある。

文② 兄からつかい古した自てん車をもらった。

文③ 「大きな古どけい」のうたがすきだ。

文④ 近くに中古の車をうっているみせがある。

ナ
ナ
古

ふる
つかい古した

ふる
古どけい・中古

A 97 ページ

門

学校の門

読み
もん

いみ
もん

文① 校門は八時にひらく。

文② 正門前にあつまった。

文③ うら門のところで、まってるね。

文④ 門ばんが二人いる。

一
門
門
門

こうもん
校門・正門前

うらもん
もん
もんばん
うら門・門番

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

光

月の光
読み
こう
ひかる
ひかり

いみ
ひかり
ひかる

文① ふゆ、日光にあたるとあたたかい。

② 月の光を月光ともいいます。

③ 月の光にてらされて、ゆきが青く光っている。

④ かみなりがピカッと光った。

光

にっこう げっこう
日光・月光

つき ひかり
月の光

頭

読み
とう
ず
あたま

いみ
(1) あたま
(2) 大きなぶつを
かぞえることば

文① かぜをひいて頭がいたい。

② あの人は、頭がいい。

③ ウマが二頭はしっている。

④ 頭にぼうさい頭きんをかぶる。

頭

にとうはし
二頭 走っている

ぼうさい ず
頭きん

野

読み
のや
おにの子は、そのあたりの野山をあるいて…。

いみ
(1) のはら
(2) ぜんのまま

文① 野はらに花がさいている。

② 野にも山にも春がきた。

③ スズメは、野鳥です。

④ にくと野さいをバランスよくたべる。

野

のはら
野原

やちよう や
野鳥・野さい

体

読み
よみ
たい
からだ
わにのところにこび、体のまわりにつみ上げていきました。

いみ
からだ

文① 体のちようしがよい。

② ゾウの体は、大きい。

③ 体いくが大すきです。

④ じゅんび体そうをしてからプールに入った。

体

たい
体いく

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

A 104 ページ

半

読み
はん
なかば
いみ
(1)はんぶん
(2)とちゅう

わにの体は、半分ほど、ほおの木のはっぱでうまりました。

文① スイカを半分^{はんぶん}に切る。

② クラスの半分^{はんぶん}は女子だ。

③ 三時半^{さんじはん}におやつをたべる。

④ 八月も、半ば^{はんば}になった。

はんぶん
半分

さんじはん
三時半・半ば

とおいところから、長い長いたびをしてきたものだから…。

A 104 ページ

長

読み
ちよう
ながい
いみ
(1)ながい
(2)上に立つ人

文① タンポポのねっこは長い^{ちよう}。

② プールのたての長さ^{しんちよう}をはかる。

③ しん長^{しんちよう}がのびた。

④ 校長先生^{こうちようせんせい}の話^{はなし}を聞いた。

しんちよう
しん長

こうちようせんせい
校長先生

そして、しばらくまじまじとおにの子の顔を見ていました…。

A 107 ページ

顔

読み
がん
かお
いみ
かお

文① 朝おきて顔^{がん}をあらう。

② 顔をくしゃくしゃにしてわらった。

③ はずかしくて顔^{がん}が赤^{あか}くなった。

④ 先生のよこ顔^{よこがん}を絵にかいた。

よこがん
よこ顔

A 108 ページ

紙

読み
し
かみ
いみ
かみ

おじいさんのせなかのしわ地図を、しわのない紙に書きうつしました。

文① 紙^{かみ}しばいが大^{おほ}すきだ。

② おり紙^{おりかみ}でツルをおる。

③ ともだちへ手紙^{てがみ}をかいた。

④ 画^えよう紙^しに絵^えをかく。

紙 紙 紙 紙 紙

おりかみ
おり紙・手紙

えようし
画用紙

25 わにのおじいさんのたからもの・はんたいのいみの言葉

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

B 109 ページ

谷

読み
たに

つりばしをわたり、谷川にそって上り…。

いみ
たに（山と山のあいだのくぼんだところ）

文① 谷にかかるつりばしをわたる。

② 谷にそって道がつづいた。

③ 谷川の水はつめたかった。

④ ダムができ、村は谷そこにしずんだ。

谷川
たにがわ

谷そこ
たに

B 109 ページ

岩

読み
がん
いわ

岩あなをくぐりぬけ、森の中で何度も道にまよいそうに…。

いみ
いわ

文① 山の上に大きな岩があった。

② おじいさんが岩にこしかけて休んでいた。

③ カモシカがごつごつした岩山をかけあがる。

④ 火山からよう岩がながれ出す。

岩山
いわやま

よう岩
がん

A 116 ページ

強

読み
きよう・つよい

犬とねことでは、どちらが強いかな。

つよまる
つよめる

いみ
(1) つよい
(2) おりにさせる

文① ぼくたちのチームは強い。

② 雨が強くなってきた。

③ 強力なサッカーチームができた。

④ かん字のべん強をした。

きようりよく
強力な

べん強
きよう

A 116 ページ

弱

読み
じやく・よわい

小さいからといって、ねこが弱いとはかぎらないよ。

よわる・よわまる
よわめる

いみ
よわい

文① 体が弱い。

② かぜが弱まった。

③ ぼくは弱虫じゃないぞ！

④ 強いことと弱いことを強弱という。

よわむし
弱虫

きようじやく
強弱

町の「すてき」をつたえます

読み、いみ、文を声に出して読み、それからノートに書きましょう。

A 118 ページ

科

読み いみ
生活科の町たんけんで見たとやわかったことを書き……
ちいさくわけたもの
くぎり

科 科 科

- 文① 生活科でアリをかんさつした。
きょう科書の文しようを読む。
あした、しように科のびよういんへ行く。
わたしのゆめは、科学しやになることだ。

せい かつ か
生活 科
きよう か しよ
教科 書

A118 ページ

友

読み いみ
とも だち
友だちやいえのひとにつたえましょう。

一 ナ 友 友

- 文① 友だちをたくさんつくろう。
友だちがゆうれいの話をしてくれた。
ぼくたちは親友だ。
友人は大切にしよう。

しん ゆう
親 友
友 人

A 119 ページ

室

読み いみ
しつ へや
2かい しちようかく室

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 室 室 室

- 文① 学校には、いろいろな教室がある。
図書室で本をよむ。
音楽室から、うたが聞こえる。
室ないプールでおよいだ。

としよ しつ おんがく しつ
図書 室 ・ 音楽 室
しつ ない
室内 プール

A 120 ページ

理

読み いみ
り 図書館をえらんだ理由は、「はじめ」にしよう。
(1)ものごとの すじみち
(2)ととのえる

王 理 理 理

- 文① 三年生から理科のべん強がはじまる。
学校を休んだ理ゆうをせつめいする。
おいしいりよう理をたべた。
本だなをせい理する。

り か り
理 科 ・ 理 ゆ う
りよう 理 ・ せい 理